

つながりあい まなびあう子どもたちの育成

愛西市立立田北部小学校

1 実践のねらい

- (1) 本校では同じ仲間や同じグループと学校生活を送る子どもたちが多く、かかわり合うことができる範囲が狭く限られている。また、世代を超えて活動する機会も少ない。そこで、学校が中心となり地域や世代を超えた活動を行う機会をつくり、地域との交流や人との関わりを学ぶ。その関わり合いの中で互いのよさを認め合うことができる望ましい人間関係を形成し、よりよい生活や人間関係を築こうとする自主的な態度や地域の活動に参加できる児童の育成を目指す。
- (2) 子どもたちが地域の方々と関わり合うことによって、地域の異世代の方々と話し合ったり活動したりして、地域に根ざした学校づくりを進めていく。

2 実践の内容

(1) 立北小校区世代間交流会議

地域の代表の方々と児童代表を交え「世代間交流会議」として、より絆を深められる行事の運営について、意見交流を行った。「もちつき」行事後の第2回の会議では、小グループに分かれて活動の振り返りと次年度に向けての話し合いを行った。

世代を超えて行事等の企画に携わることにより、児童がより地域とのつながりをもとうとする意識が高まった。



世代間交流会議

(2) ふれあい教室

今年度から、地域の方や家族学級の触れ合い活動として、地域の方々を講師とした親子での「ふれあい教室」を企画した。通学団ごとに、紙飛行機づくり・フラワーアレンジメント・手品・スポーツ活動など6つの講座に分かれながら体験を行った。事前に児童による「打合せの会」をもち、運営や役割分担等について話し合ったことを、家庭や協力していただく地域の方に発信した。



ふれあい教室

当日の講座の一つである「フラワーアレンジメント」では、ペットボトルを利用した花器作りから始まり、親子で相談をしながら花を挿していった。お互いに褒め合いながら作業を進める中で、地域の講師の方々と触れ合いながら、親子の絆が深まるひとときとなった。

(3) こめ米クラブ

ア 五平餅づくり

主食としての米だけでなく、古く江戸時代から作られていた五平餅のことを知り、米づくりへの意欲を高めるために、地域の方々の指導により、今年度新たに「五平餅づくり」を行った。作業を進める中で、会話がはずみ、地域の三世代が触れ合う機会として、次年度への継続を希望する声が高まっている。



五平餅づくり

イ 田植え

地域と共に育つ児童の育成を目指して、5年生では、年間を通して米づくりの体験活動に取り組んでいる。実習田に手植えで苗を植えるために、地域の方々に苗のぼらし方や持ち方・植え方を教えていただいた。横一列になり、ピンと張った紐の印のところに確実に苗を植えていく作業は、みんなの息が合わないと難しい。保護者も一緒に参加し、みんなで声を掛け合い協力して田植えをすることで、共に汗してやり遂げた一体感を共有することができた。



田植え

ウ 稲刈り

地域の方々に、稲刈りの方法を教えていただき、かまを使って一株一株稲を刈って一山ずつにまとめていった。上手に刈っている地域の方の刈り方を見たり教えていただいたりしながら、実習田の稲を全て刈り終えることができた。稲の束を運んで地域の方に手渡し、コンバインに入れていただき、脱穀がされていった。「お願いします」「頑張ってるね」という声が飛び交い、地域の方々や保護者との絆が深まる活動となった。



稲刈り

エ もちつき

米づくりの収穫祭として、毎年行っているもちつきの行事は、米づくりを指導していただいた方々を始め、学校評議員・学校ボランティアなど地域の方々を招いて行っている。PTA役員・児童会役員を中心に準備会をもち、会の運営や準備の効率化等について話し合った。前日には、高学年児童とPTA役員が、会場設営やもち米の準備をし、当日を迎えた。低学年児童から「よいしょ」「よいしょ」の声援を受けて、4つの臼の餅がつき上がった。地域の方々と全校児童が、一緒になって収穫を喜び合うこの行事は、本校のよき伝統となっている。



もちつき

3 実践の成果や課題

絆を育む学校づくりにおいて、今まで地域の方々が協力してくださった活動への認識を新たにし、「絆をより深めるための方法や工夫」「絆づくりのための場の設定」等を考えてきた。子どもたちは、いろいろな活動を通して、多くの地域の方々との交流を深め、感謝の気持ちや地域とのつながりを強く感じる事ができた。それによって、学校・地域でのよりよい活動や生活を目指し、自分たちから働きかけをしたり、地域の活動に積極的に参加したりできる子どもたちが育ってきている。

今後の課題として、地域と交流する活動においては、それに至るまでの過程を大切に、より一層内容の充実を図りたい。また、現在行っている地域の環境保全や防災への取り組みについても、学校と地域が意見を出し合い、さらに有意義なものにしていくための協力体制づくりを進めていきたい。